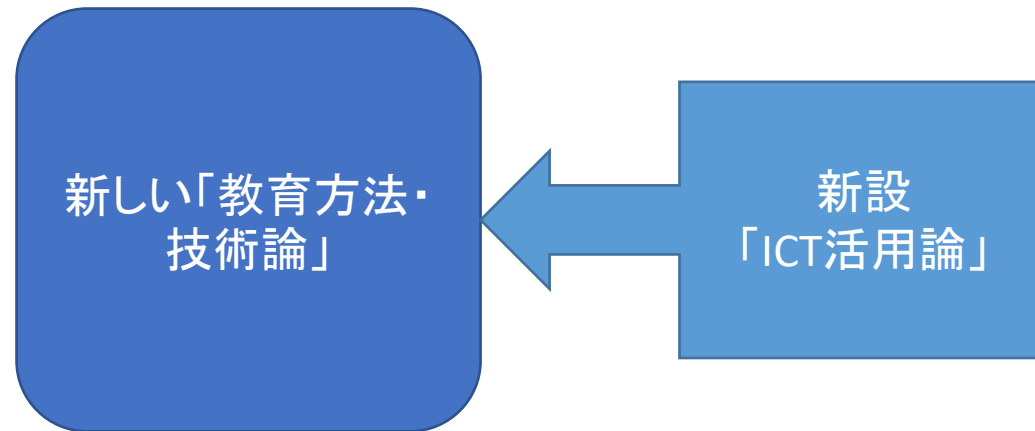


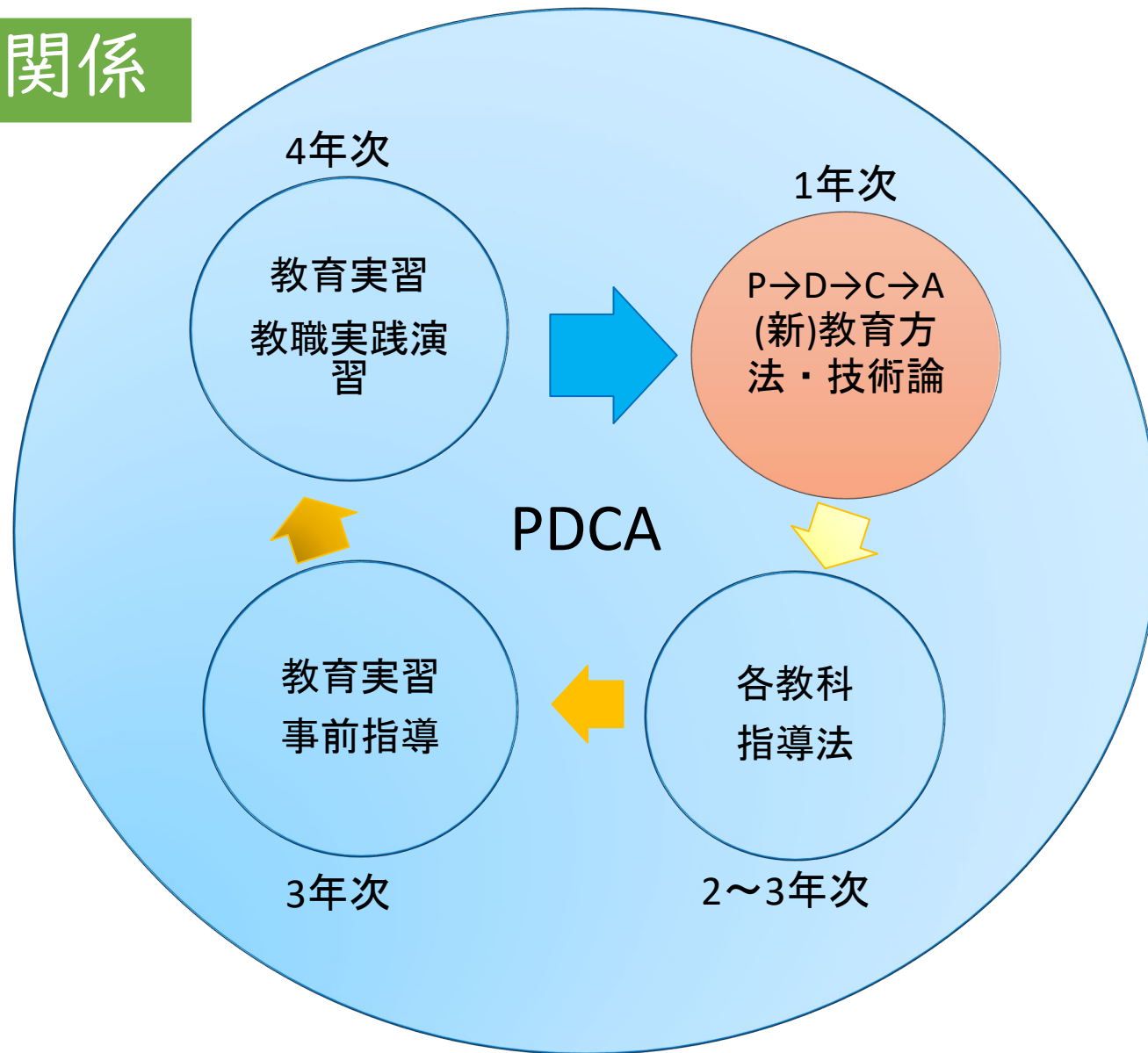
PDCAその2（授業科目「教育方法・技術論」において）

目標：1年次の設定科目「教育の方法と技術」において、「探究的な学習」の内容の理解と同時に、情報通信技術の活用を目指す。



- 本年度2021年度から、2022年度に向け、1年次設定科目「**教育方法・技術論**」（教育の方法及び技術）と新設科目「**ICT活用論**」（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法）の併用したコアカリキュラム、シラバスの作成と授業内容・方法の改善を目指した。

大・小PDCAの関係



2021年度に準備したこと

教育方法・技術論
(コアカリ)
「主体的・対話的
で深い学び」

ICT活用論(コアカリ)
「主体的・対話的で
深い学び」

新・教育方法・技術論
「探究的な学習」
(学びの深さ)

ICT活用による支援

実施内容(左) と 提出課題(右)(2021年度)

各授業回の内容(概要)←

- ←
- 1回 講義と課題の提出+「グループ分け」・・・A←
- 2回 基本的な学習指導案(授業展開)の作り方+「グループ分け」・・・A, B←
- 3回 講義・・・A, C←
- 4回 ジグソー学習・・・A, B←
- 5回 ジグソー学習を元に講義と課題提出+「指導案の見本を見せる」・・・A, B←
- 6回 講義と課題の提出+基本的な学習指導案(授業展開)の作り方・・・A←
- 7回 授業構想を持ち寄り学生の発表(グループ15分)+学生、教員コメント・・・A, B←
- 8回 授業構想を持ち寄り学生の発表(グループ15分)+学生、教員コメント・・・A, B←
- 9回 講義と課題の提出+「授業シナリオと学習指導案の見本を見せる」・・・A, B←
- 10回 学習指導案(授業展開)のより詳細な書き方、アイデアの出し方の説明・・・A, B←
- 11回 学生発表(一人5分)+教員コメント(サブテーマに合うとよりいいです。)A, B←
- 12回 学生発表(一人5分)+教員コメント(サブテーマに合うとよりいいです。)A, B, C←
- 13回 学生発表(一人5分)+教員コメント(サブテーマに合うとよりいいです。)A, B←
- 14回 学生発表(一人5分)+教員コメント(サブテーマに合うとよりいいです。)A, B←
- 15回 まとめの講義+課題「他者評価の取り入れレポート」の提出・・・A, B←

備考：GoogleClassroomのグーグルドキュメントに課題を提出する。←

各授業回に必要な課題提出物の流れ←

(GoogleClassroomのグーグルドキュメントに課題を提出する)←

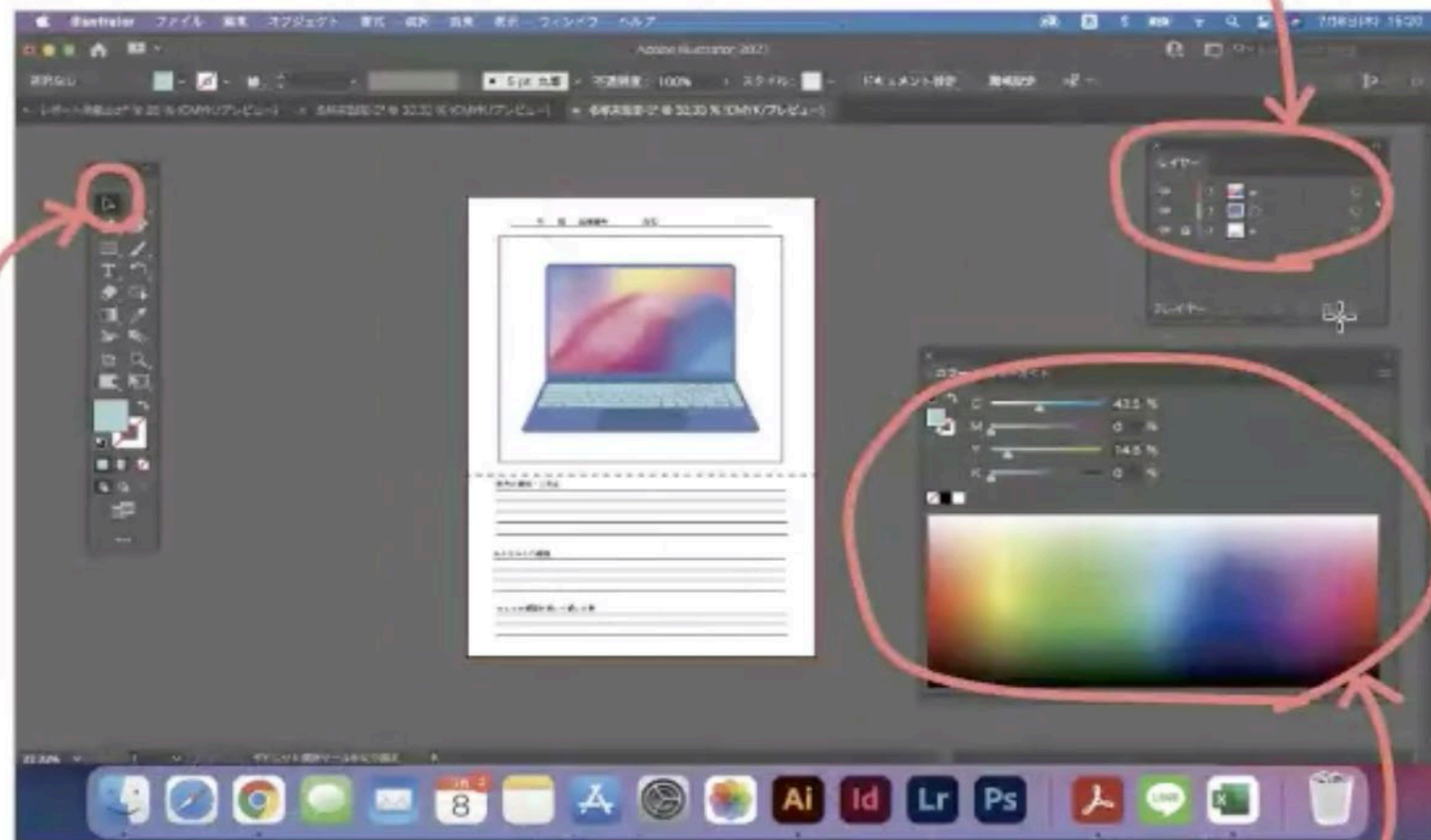
- ←
- 1回 課題の提出←
- 2回 ←
- 3回←
- 4回の前日17:00までに「授業構想」の提出←
- 5回 課題の提出←
- 6回 課題の提出←
- 7回の前日17:00までに「改善した授業構想」の提出←
- 8回←
- 9回 課題の提出←
- 10回←
- 11回の前日17:00までに「授業展開(学習指導案)」「板書計画 or(授業シナリオ)」の提出←
- 12回←
- 13回←
- 14回←
- 15回の前日17:00までに「改善した授業展開(学習指導案)」、課題「取り入れレポート」の提出←

事前課題「授業展開」「板書計画」の提出と「授業発表」

5分間で、
学生が自
分の授業
を紹介す
る(美術)。

イラストレーター使い方

今回の授業で使うのは左上にある黒い矢印のツールだけ。



×と書いてあるレイヤーは触らない。
○と書いてあるレイヤーのみで作業する。

ここで色を変えることができる。色を変えたい部分をクリックした後に上のバーや下のカラーマップをクリックすることで色を変えられる。

知識・技能の習得と思考・判断・表現力の育成のバランス

改善した「授業展開」

・日常生活で目にするものやロゴ使い説明する。

・次々と説明するので、最初の方に説明した効果を生徒が忘れない 為に黒板に説明した効果を全て掲 示し、作業中にも見れるようにす る。内容を覚えさせる事ではなく 作業中に色彩の効果を念頭に置いてもらえるように教える。

5 本時の指導と評価の計画（全6時中の第1時）

（1）本時のねらい

- (1)生徒自身が自由な発想で配色を考えるようになる。
- (2)色彩によって人が感じる効果や色彩調和の基本について理解し自身の作品に活かせるようになる。
- (3)色彩が与える効果をきちんと理解した上で、文章に表せられるようになる。

(高等学校学習指導要領美術Iのデザインを含めた表現の指導を主とした授業である。)

（2）中心的な問い

色彩にはどのような効果があり、どのように使用するのが良いか。

必要なところでの ICT機器の活用

「授業展開」の振り返り

・プリントや練習問題などの学習は、どのような力をねらったものか？

一つはイラストレーターの使用方を説明する為のプリントであり、説明をプリントを一人一人に配布する理由としては全体で教えるよりも使用方を理解しやすくなることと生徒の中での勘違いを減らすためです。

もう一つのプリントは課題提出用のプリントですが、データではなく紙ベースのプリントにする理由としては生徒によってタイピングの速さが違うというのがあります。プリント内に創意工夫の欄があるのは、自分が配色した色の理由を生徒が頭の中で整理して言語化することにより、より深い学習につながると思ったからです。

もう一つ別の ICT機器の活用

他者の授業からの取り入れ

第11回 さん

絵を描く授業で、検索ツールを使用するのは斬新だと思った。検索ツールを使うことにより、上手な人の真似をしたりと美術に対して興味がない生徒にも取り組みやすい授業内容だと感じた。

私が さんの授業展開で取り入れたいと感じた部分は絵を描く時に描き方や表現方法を検索ツールを使い調べても良い授業にしているところです。検索ツールを使うことにより美術が苦手な人も描きやすくなり手を止める生徒が減るのではないかと考えました。特に、私の授業展開では知識を自分で取り入れてくれるのはとても良いことであり検索ツールは生徒自らが深い学びにもつながる一つだと考えました。

5分間で、学生が自分の授業を紹介する(工業)。

本時の指導と評価の計画【建築構造 基礎 第1/2時】

(1)本時のねらい

- ①基礎を支える地盤の性質を理解する。
- ②液状化現象について説明できる。
- ③これから建築を学んでいくうえで、地盤と災害は最重要項目として考える必要がある事を理解している。
- ④今回学んだ事を踏まえて、自分の人生の基礎について考える事が出来る

ICT(動画)の二つの側面での活用

授業発表のもとになる 事前課題「授業展開」

液状化現象とはどのようなものなのか視覚的に体験出来る。

- ・「災害」の脅威を感じさせる。
- ・「災害」と「建築」の結びつきを視覚的に理解出来る。
- ・一瞬の動画なので注視して見る様に声掛けを行う。

自分たちで「地盤」「水」「地震」「粒子」「摩擦力」などのワードが出るか確認する。

- ・ここまでの内容と関連付けられているか。
- ・黙っている人が出ない様に声掛

「主体的に学習に取り組む
態度」

「安全で安心な建築物の構造を実現する」ための足場の1つとして学んでいる。

けをする。

- ・対話力の向上をはかる。
- 動きのある図を使用しながら流れに沿って説明することで、液状化現象の流れを掴ませる。
- ・重要な言葉は赤字で表記
 - ・「どんなところで起きやすいか」はあえて触れない
 - ↳自分たちで気付かせる

「思考力・判断力・表現力」
キーワードを的確に把握する事が出来ている。

- ・ 知識を活用する生徒活動
- ・ 学習指導要領活用の重視

「授業展開」の振り返り

模擬授業における「授業展開」作成のためのポイント

- ・ **本時の目標は、どのような力をねらったものか？**
建築構造を学んでいくうえに必要な「基礎」。その基礎の前段階として、考慮しなければならない「地盤」と「災害」について理解し、自分の将来と今後の建築を結び付けて考える力を身に付ける事をねらいとしている。
- ・ **プリントや練習問題などの活動は、どのような力をねらったものか？**
今回は、「今回学んでいる事を用いて、将来の建築について考える」という課題を出した。この課題を出す事によって、授業を通してどれだけ自分の力で探求しようとしたか
- ・ **評価規準は何か、どのように対応させたのか？**
学習指導要領にて、「社会や産業の発展、環境に与える影響」と記載があり、建築と自然環境が密接に繋がっている事を明確にした。

ICT活用の意図の記載 他者に対する教師コメントの取 り入れ

他者の授業からの取り入れ

①第2回 〇さん 【美術】

〇身の回りのデザインについて

- ・何のためにその発問があるのかが明確になっていた。
 - (授業シナリオ) (授業展開) 導入の問いがなぜ必要かを簡潔に追加
 - ↳ なぜその問いが必要かを明記する事で、重要性を知る事が出来る。
- ・ICTを活用する意図が書かれていた。
 - (授業展開) 展開3でICTを活用してグループワークをする理由を追加
 - ↳ その授業でのICTの目的と意義を知る事が出来る。

③第4回 〇さん 【工業】 に対して茂野先生より

〇人と技術と環境について

- ・私と同じく、どう建築に関わっていくかが明確ではなかった
 - (授業シナリオ) 展開3の最後に、ここまでで学んできたことがこれからの建築に関わる事を明確に説明する事を追加
 - ↳ この授業は建築なので、専門性を理解する事が出来る。